令和7年度　校内研修計画

**１**　**学校課題**

　勝沼地区は、学校と地域との結びつきが強く、保護者は学校教育に深い理解と関心をもち、様々な活動に協力的である。児童数は12６名で、どの学年も学級の人数は２５名以下であるが、個に応じた支援が必要な児童も多く、児童一人ひとりの個性は多様化し、学習意欲や学習能力の個人差も大きい。

**２　研究主題**

|  |
| --- |
| **子供主体の授業づくりを通した、児童の資質・能力の育成**  ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実と地域と連携した教育の実践を通して～ |

**３**　**主題設定の理由**

（１）学校教育目標具現化の立場から

本校の学校教育目標は「『かしこい子』を育てる」である。具体目標として「考えて学習する子ども」「強くたくましい子ども」「温もりのある仲間づくりのできる子ども」「真心をもって行動できる子ども」の４つが掲げられている。知・徳・体の調和のある人間性豊かな児童の育成を具現化するために、「知」においては基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・問題解決能力）の育成が重要である。

（２）今日的課題から

ここ数年の本校の全国学力・学習状況調査の結果からは、読解力の低さや、与えられた条件に合わせて記述回答する力、示されたきまりを基に、問題解決の過程を式や言葉を用いて説明することなど、自分の考えを言葉で表現する力に課題があることが明らかになっている。また、昨年度のCRTの結果から、基礎的・基本的な知識・技能の理解の個人差は大きく、学習した内容を定着させるためには指導の個別化と学習の個性化の両面からの支援が必要な状況があると考えられる。

これらの児童の実態から、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けつつ、それらを活用し、自分なりに考えて最後まで諦めないで課題を解決したり、自分の考えを他人に表現したり、新たな問いを見つけて次の学習課題を設定したりする力を育成することが必要となってくる。

（３）これまでの本校の研究から

　本校は、自ら考え、進んで表現できる児童を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の工夫と改善について、生活科、社会科、外国語科と実践を広げて行ってきた。その際、各教科の見方・考え方を働かせながら、「個別最適な学習」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることで、本校児童の課題である学習意欲や学習の定着の個人差、自分の考えを他人に表現する力を高められるのではないかと考え研究を進めてきた。探究のサイクルを通して自然と協働的な場が作られたり、他者参照から自分の考えと比較する姿が見られたりと、主体的に学習に取り組む児童の姿が見られた。

一方課題として、子ども主体の授業展開については、各学年で取り組む方向は同じであったが、具体的な取り組み方には学年差があったと感じる。また、協働的な学びとして簡単な意見の交流はできているが、学びの深まりには課題が見られる。調べたことの交流はできるが、考えたことの交流をさせるためには、日常の言語活動の充実や思考力を高めていく必要性を感じる。

**４　研究の具体的内容と方法**

1. 子供主体の授業作りに向けての理論研究や学習会【全体研での理論研究・講師招聘による学習会】

②「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた授業研究

　　→社会科、総合の授業を中心とした子供主体の探求型の授業（高ブロック研究）

　③甲州市「夢をかなえる学びのプロジェクト」と連携した取り組み

　　→地域人材を活用しての子供主体の授業（生活科・総合での授業）（低ブロック研究）

　　→「甲州市Teacher’s Note」活用し、基礎的な学力を育む　　【全体研】

　　→WEBQU調査を基にした、学級集団づくりと児童支援の実施　 【全体研】

☆①②③を通して、市制20周年の学校紹介に向けて勝沼小の良さを発信していく

　 外部講師、見学、実験や観察、オンライン交流等デジタルの力でリアルな学びを支える

５　年間研修計画

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 回 | 月／日 | 主　な　内　容 | 形態 | TC要請 |
| 1 | 4/16 | ◇昨年度の研究について、今年度の方向性 | 全体 |  |
| 2 | 4/23 | ◇学校課題、研究主題、年間計画等の概要の決定 | 全体 |  |
| ３ | 5/14 | 勝沼中ブロック交流➀ |  |  |
| ４ | 5/16 | 甲州市「夢をかなえる学びのプロジェクト」教育講演会 |  |  |
| ５ | 5/21 | ◇研究内容・方法について | 全体 |  |
| ６ | 5/28 | ◇WEBQUの分析・児童の実態把握➀ | 全体 |  |
| ７ | 6/18 | ◇低学年、高学年ブロック研究①　方向性の検討 | ブロック |  |
| ８ | 6/28 | 甲州市「夢をかなえる学びのプロジェクト」教育講演会 |  |  |
| 9 | 7/2 | ◇学級づくりアタックシート「2学期に向けて」作成 | 個人 |  |
| 1０ | 8/18 | ◇学習会「個別最適な学びを実現する授業づくりについて」 | 全体 | 〇 |
| 1１ | 9/24 | ◇低学年、高学年ブロック研究②　実施計画 | ブロック |  |
| 1２ | 10/22 | 甲州市「夢をかなえる学びのプロジェクト」教育講演会 | 全体 |  |
| 1３ | 10/24 | 勝沼中ブロック交流②（祝小学校研究授業参観） |  |  |
| 1４ | 10/29 | ◇WEBQUの分析・児童の実態把握② | 全体 |  |
| 1５ | 11/12 | ◇低学年、高学年ブロック研究③　研究の振り返り | ブロック |  |
| 1６ | 11/26 | 勝沼中ブロック交流③（勝沼中学校研究授業参観） |  |  |
| 1７ | 12/2 | 甲州市「夢をかなえる学びのプロジェクト」教育講演会 |  |  |
| 18 | 12/3 | ◇学級づくりアタックシート「３学期に向けて」作成 | 個人 |  |
| 196 | 2/4 | ◇今年度の研究のまとめ・来年度に向けて | 全体 |  |
| 20 | 2/25 | ◇CRT調査の結果を受けて | 全体 |  |
| 21 | 3/4 | ◇研究紀要作成 | 全体 |  |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（研究主任　中根　淳）